

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 4階		
所在地	京都府京都市上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690500042-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和 2年 12月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しく・自由に・ありのままに。残された力で暮らす喜びの、理念にもとずいて、入居者様の思いにちかづけるよう心がけます。
出来る事はご自身で・・・残された力を発揮して頂けるように見守りさせていただきます。

家庭的な雰囲気の中で、人生の最期まで、その人らしく生活できることを目指して支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「さざなみ京都南」は、有限会社「さざなみ」の傘下として平成25年に開設しました。3ユニット27名が生活されており、平均年齢86歳、平均介護度3.6です。高齢化や認知症の進んでいる方など転倒のリスクは高くなっています。中でも職員は、利用者の移動は手引き歩行をおこない、残存機能の維持に努めることで車椅子生活への移行を回避しています。行事も室内や小人数できることは続行して、畑での花や夏野菜、芋を育て収穫に取り組みました。管理者は、「心ある支援」で利用者に家庭的でやさしく接することができるや、職員同士いさかいのない、毎日出社したい気持ちの持てる人材育成を目指しています。コロナ禍でも毎月研修を実施して、学びの成果をサービス提供に生かしています。この1年間、職員の退職者はありません。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にてスタッフ全員で理念の唱和を行っている。	法人理念と職員の心がまえば玄関に掲げ、毎日唱和し想いを1つにしている。事業所では、職員皆で考えたスローガン「心と心でお一人おひとりに寄り添う」を掲げている。理念とスローガンは、介護計画や日々の支援を考える時の柱として取り組み、年1回振り返りを行っている。職員の間関係は良く、利用者によりやさしく接するや言葉使い技法を学ぶ中、この1年職員の退職者はいない。コロナ禍で家族への情報提供として、A4用紙に行事時などの写真を多数載せ送っている。ホームページやパンフレットに理念やスローガンの掲載はない。	法人理念や事業所スローガンは事業所の姿勢を示している。法人理念はホームページやパンフレットに記載して外部に発信していくことを望む。また、広報紙はA4で写真のみを掲載しているが、裏面も利用してはどうか。そこにはスローガンを記載して管理者や職員からのメッセージ、行事への招待や報告、研修報告や異動、アンケート結果、意見や相談への対応など、多くの報告が順次できるのではないかと、検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にフィーリングアートの方に来ていただいている。	町内会には入会しており、昨年は組長を努めている。例年なら地区の運動会や地蔵盆、公園の掃除など利用者とともに参加しているが今年度は中止している。上鳥羽小学校の見守り隊への職員の参加も中止している。各種ボランティアの来所も止めている中、唯一、年間3～4回の来所がある「フィーリングアート」は継続し、映像や音楽、歌など楽しんでる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題として、認知症への理解を深めていただくためのイベントなどの開催を行う必要を感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告やご意見を頂いている。	メンバーは利用者、家族、後見人、近在の介護事業所職員、地域包括支援センター職員である。現在会議は書面で利用者状況、事故報告やヒヤリハット、行事など報告し意見をもらっている。メンバーからの意見・要望は少ないが、利用者の体形に合った車椅子の選択について意見があり取り組んでいる。議事録は全家族や後見人に送付している。	メンバーに地域代表が少ない。自治会長や民生児童委員、老人会、地域社協や女性会、近隣の商店の方など要請されてはどうか。議事録はどなたの意見か回答かなど詳細な記録を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時担当者の方にお会いして入居者様の状況報告を行っている。	担当課に運営推進会議の議事録を届けたり、事故報告や困難事例などの相談をしている。管理者は、地域ケア会議の委員を務めており「地域交流サロン」開催の協力や事業所を会場として提供している。地域の「かけはし会議(閉じこもり老人の支援)」に参加し助言支援をしている。地域ケアマネジャーのリモート会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修をスタッフ全員で行い、スタッフに強い意識をもってもらいケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ委員会は、現在月1回の全体会議の中でおこなっている。指針やマニュアルを活かした研修は年2回実施し、毎回レポートを提出して意識や資質を高めている。スピーチロックや上から目線の言葉は使用しないよう統一し、気になった場合は管理者が個別に話をしている。夕方になると玄関に向かう利用者がおられ、話を聞きコーヒーの提供など見守りを強化している。不審者の訪問があり、侵入防犯対策として玄関は外から開けられないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修において、スタッフ間で意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居様の権利についての研修会は行っている。後見人制度については、制度についての研修のみしかできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規定にそって説明を行い、同意を頂いている。		

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などでの家族様との会話で要望やご意見を聞かせて頂いている。	運営推進会議時や来訪時、電話などで意見や要望を聞いている。毎月1回、利用者の写真付きの近況報告の手紙とA4で印刷した行事などの写真集、管理者からの報告やお願いを付けた便りを家族(後見人)に送っている。法人で顧客満足度調査を実施し、集計が事業所に届いている。家族に報告されていない。家族にも報告を期待する。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員での会議やリーダー会議にてスタッフの意見や提案を聞いている。	管理者は各会議に参加している。全体会議では、土・日の人員配置についての職員提案の実現を検討している。リーダー会議では、次のリーダー育成を依頼している。年2回職員に個人面接をして、個人目標に沿った指導や助言、意向の聞き取りをしている。業務中のケアに関する質問では、現場で技術指導もおこなっている。職員は、業務終了時には毎回「1日のチェックシート」で業務を振り返り、反省や気づきを書いている。現在、フロア会議の議事録がないが、ぜひ作成して検討経過を残すことは必要である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境としてシフト作成時に柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価等を行ってもらい、自身の目標を設定してもらうことで技術の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会をできるだけ多く作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にしっかりとしたアセスメントを行うことや家族様の思いもしっかりと受け止めて意向に添ったサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で家族様の思いや要望をしっかり受け止め意向に添える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の思いに寄り添って少しでも、思いに近づけるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の思いに寄り添って、小さな事でもスタッフ間で共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居様に、お変わりがあった時は、必要に応じてご家族様に相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの公園に出かけている。	利用者の中には生活歴の分からない方や、親族と疎遠になっている方もおられ、高齢化とともに友人知人の面会もあまりない。入居後の新しい環境や人間関係になじめるように、職員や利用者同士の交流を深め、併設事業所の利用者やボランティアの方たち、訪問理美容室の方たちなどとの関係構築に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の思いを把握し尊重して楽しく関わって頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、連絡があれば、相談をお受けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との日々のサービスの中で思いなどに気づき、意向などが反映される様に家族様とも相談している。	認知症が進んでおり、自ら希望を述べられる利用者は少ない現状がある。世話をする家族がおられない方も多く、後見人が付いている方もおられる。その中でも「元気でのおんびり過ごしたい」と言われる方もいる。新しい環境や人間関係に適応できるように家族的な雰囲気支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話の中に出てくる昔の様子をしっかりと聞き、他のスタッフとも情報の共有をはかっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での小さな変化に気づけるよう努め、自立を促す(できることはご本人で)などの支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の生活歴を把握し、思いに寄り添えるように皆で意見交換を行いケアプランを作成し支援していけるようにする。	フロア会議で毎月カンファレンスをおこなっている。介護支援専門員と介護計画作成者、介護士で3か月ごとにモニタリングと見直しをして、介護計画を家族に送付している。介護課題に数個の目標設定のされているものがある。モニタリングはモニタリング表でおこなわれているが、現評価ではサービス提供内容の妥当性の検証としては経過が見えにくい。家族とはモニタリングの前後に意向確認をしている。アセスメントシートは、入院時や状態変化時に更新している。	1つの課題に対し数個の目標を立てると、どの目標を目指したサービス提供なのか混乱はないか。必要性の高いものから目標設定して、達成後次の目標を目指す介護の展開をさせてはどうか。モニタリングは各介護課題ごとに「スタッフの援助が計画に沿っておこなわれているか・サービスの内容は適切か修正か。・目標達成の状況・ご利用者(家族)がどのように反応したか(満足度)・今後の対応」など、項目に沿って話し合い、内容を記録に残すことをお勧めする。

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中から気づきからのケアを介護計画に反映させていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のご希望、意向に添えるように、家族様と連絡をとりながらきめ細かなサービスを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しつつあるが、有効に活用する方法を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	吉祥院病院の訪問診療や受診をさせていただいている。	3名の利用者は従来のかかりつけ医を継続している。他の方たちは協力医療機関から訪問診療を受けている。往診もある。歯科医（歯科衛生士）の定期的な診療もあり、臨時往診もある。マッサージを受けていた方もおられたが、コロナ禍で中止している。吉祥院往診センターから週1回看護師が来所して、利用者の健康管理をしており、電話での相談も可能である。緊急時や夜間対応時は管理者が来所し支援をおこない家族に連絡している。入院時は救急車に同乗し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状況を報告、相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様、家族様とご相談しながら、医療機関との連携を図りながら、早期での退院を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの講習をひらき認識を深め、家族様に同意を頂いた上で、医療機関とも連携している。	「看取り介護にかかる指針」「重度化した場合の対応にかかる指針」に沿い、契約時に説明をして、その後も必要に合わせ話し合いをしている。研修は毎年おこない学びを継続している。利用者(家族)の希望により看取りをおこない、この1年で5人の方を看取っている。希望により家族とともにエンゼルケアもおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を目に付くところに貼り、連絡系統図も掲示して、常に連絡できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、スタッフと共に入居者様にも参加頂いている。	消防署員の立ち合いで指導を受け、年2回の防災訓練をしている。歩ける利用者とは、外階段を手つなぎで降り駐車場に避難している。火災や風水害、地震の各種マニュアルは整備している。地域の防災訓練には参加できていない。参加して地域との連携を深める取り組みは必要ではないか。事業所は京都市から、有事に際しての市民の避難場所としての活用を依頼されている。備蓄は水、食料、備品など3日分がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格や人生史を考えて、声かけや対応を考えて行っている。	「利用者の権利や尊厳・コンプライアンス」の事業所研修でプライバシー保護や権利擁護、倫理および法令遵守を学んでいる。特に、利用者に寄り添う言葉がけについては、全体会議でも話し合っている。引継ぎ時はリビングは見通せるが、リビングに声は届かない事務室でおこなっている。職員の気になる言動や「1日の振り返りシート」の意見に対しては、管理者が個別指導をしたり全体会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々接する中で利用者様の思いをスタッフに伝えていただけるように空間づくりをしている。		

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残存機能などを見極めてスタッフ同士で話し合い、入居者様の意向に添う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一度理美容業者の訪問を利用し、服も自己決定して頂けるように選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルの片付け、アルコール消毒などをスタッフと一緒に、今から食事が始まることを認識して頂いている。	主菜は外部業者のクックチルが届くが、一品は職員が調理している、ご飯と味噌汁も職員が料理して、特別食にも対応している。毎朝食にヨーグルトかヤクルトが付き、週1~2回果物が添えてある。水曜日の昼食は、利用者の希望献立で手作りをしている。食材は生協から配達がある。お寿司の希望が多い。手作りおやつは月2回おこなっている。たこ焼き、ホットケーキ、クレープ、フルーツゼリー、羊羹など好みや季節感を取り入れている。利用者が畑で収穫したさつまいもはアツアツの天ぷらで味わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量に注意し、記録して足りない場合には代替食品や原因を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなどの口腔ケア時に、口腔内の状態を確認し報告、相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、サイクルをつかみ、声かけをして気分よく排泄して頂いている。	トイレは室外にあるが、基本「トイレでの排泄」を支援している。リハビリパンツとパットの併用者は多い。パット使用の検討は適宜している。紙おむつ使用者はいない。退院後、車椅子の利用者に機能訓練を励行して、手引き歩行でトイレに行けるようになった事例がある。利用者の生活の質の保持のため、職員の残存機能の強化への思いは高い。ポータブルトイレの利用者はいない。	

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはバナナとヨーグルトを召し上がっている。体操を1日に2～3回程度して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定・気分や体調をしっかりとみて、一緒に入浴準備などをさせてい頂いている。	週2回の入浴を基本として、必要に合わせシャワー浴や清拭、ベッド上でのシャンプーもおこなっている。個別に湯は入替し、希望者には同性介助である。利用者に午前か午後かの希望を聞き、脱衣室と浴室の温度差がないように調整をしている。転倒事故防止のため手引き歩行や患側を支えるなど十分注意している。浴室内にシャワーチェアとスライディングボードがある。入浴拒否の時には、職員をかえる、時間を空ける、日を変えるなど工夫しているが、現状では拒否される方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝など、ご本人様のペースに合わせて支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時の受診もさることながら、服薬情報も情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて、洗濯物たたみやトレーふきなどのお手伝いを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様・ご家族様のご希望があれば、外食レクリエーションをおこなっている。	コロナ禍で日常におこなっていた散歩や買い物、外出レクリエーションは自粛している。代わりにラジオ体操や嚙下体操に加え、音楽に合わせて踊るなど身体を動かすレクリエーション活動をおこなっている。事業所での行事(節分、流しそうめん、花火、敬老会)などは各ユニットごとに開催している。畑で花や夏野菜、芋を栽培し、利用者の楽しみは減少させることがないよう継続している。	

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設やご家族様の管理の元で、生活用品の購入や嗜好品の購入をさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望するときには支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションなどで作成された作品をフロアに飾り付けしている。	リビングは南側に大きく窓を取り明るい。歩行器や車椅子の移動にも十分な広さがある。利用者の席は相性の良さや車椅子での動線を考え決めており、1人を好む方にも配慮して、食事時は全員椅子に座っている。サンタクロースとクリスマスツリーが年末の訪れを告げている。換気は適時実施して、掃除は夜勤で毎日おこない清潔に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり、利用者様同士のスペースに気を配り座って頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付け掃除を行い、使っておられた家具などを使用させて頂いている。	居室には、ぬいぐるみや写真、母の日のプレゼントのプリザーブドフラワーなどがある。仏壇や茶道の道具を持参している方もいる。茶道の先生をしていた方は、お茶を点て他の利用者にもふるまわれることもある。職員はプラスチック容器に水を入れたり濡れタオルで室内の加湿調整をし、毎日の掃除機かけと拭き掃除で清潔な環境を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口にお名前をつけさせていただき、ご本人様で確認して頂けるように工夫している。		